

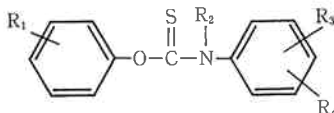
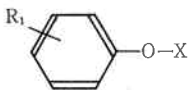
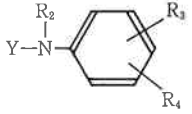
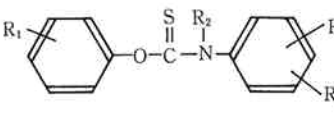
付

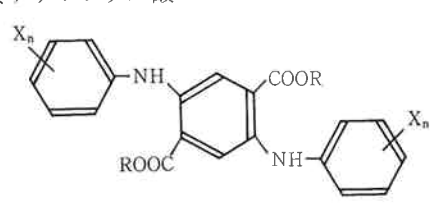
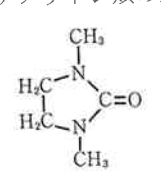
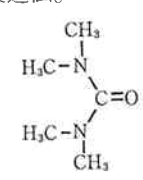
## 特許・実用新案登録一覽

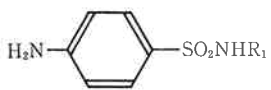
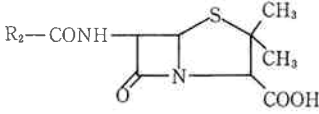
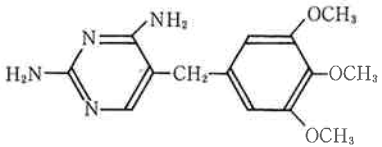
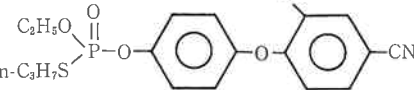
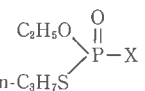
—1990年度—

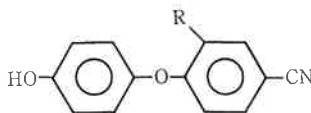
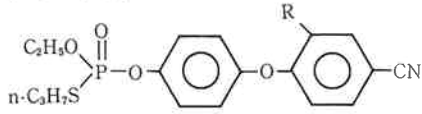
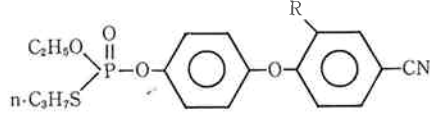
〈日本特許〉 45件

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
1	57-043715 S 57.03.20 (佐藤 眞一, 蒲谷 (関東興業(株)と共願)	01-020063 H01.04.14	01537952 H02.01.16 (勲)	車輛等の内装用積層材	1 エチレン-酢酸ビニル共重合体または30重量%までのポリエチレンを含むエチレン-酢酸ビニル共重合体から成り, その全酢酸ビニル含量が5~25重量%の樹脂成分70~97重量%, 環球法軟化点 95~140°C の粘着性樹脂3~30重量%, 融点 90°C 以上あるいは環球法軟化点 95°C 以上の難燃剤を核樹脂成分と核粘着性樹脂の合計量に対し10~50重量%, 脂肪酸アミド, ポリエチレングリコール, 水添ひまし油から選ばれる加工性改良剤を該樹脂成分と該粘着性樹脂に対し, 0.05~2重量%含み, メルトインデックスが 2~100 g/10 分であることを特徴とする組成物を20~150ミクロン, 難燃化処理した織物または編物にバッキングしてなる車輛等の内装積層材。
2	57-012561 S 57.01.30 (橋本 功二, 川嶋 (橋本 功二と共願)	01-021592 H01.04.21	01541171 H02.01.31 (朝日)	メタノール系燃料電池 燃料極用表面活性化非 晶質合金	1 P, Si およびBのいずれか1種あるいは2種以上4-35原子%を含み残部パラジウムからなるメタノール系燃料電池燃料極用表面活性化非晶質合金。 2 P, Si およびBのいずれか1種あるいは2種以上4-35原子%を含みかつ (1) Ni, Ru, Rh および Ir の1種あるいは2種以上65原子%以下 (2) Fe, Co, Pt および Sn の1種あるいは2種以上40原子%以下 (3) Ti, Zr, Cu, Au および Ag のいずれか1種または2種以上25原子%以下の群のうちから選ばれた1群または2群以上を合計量で65原子%以上含有し, 実質的残部として15原子%以上 Pd を含み, 全体を100原子%とするメタノール系燃料電池燃料極用表面活性化非晶質合金。
3	55-138258 S 55.10.04 (森下 悟, 工藤 村山 浩)	01-020842 H01.04.18	01541104 H02.02.06 (正行)	青果物の鮮度保持剤お よびその製造法	1 予め酸処理した天然ゼオライトの粉状又は粒状の担体にパラジウム化合物を担持させたことを特徴とする青果物の鮮度保持剤。 2 予め酸処理した天然ゼオライトの粉状又は粒状の担体を塩酸酸性下でパラジウム塩水溶液と接触させ, 次いで, パラジウム塩を担持した前記粉状又は粉粒物を常温 ~500°C の範囲の任意の温度で加熱することを特徴とする青果物の鮮度保持剤の製造法。
4	56-118467 S 56.07.30 (工藤 正行, 森下 村山 浩)	01-020843 H01.04.18	01541155 H02.02.06 (悟)	青果物の鮮度保持剤	1 アルミン酸マグネシウムに過マンガン酸カリウムを担持させたことを特徴とする青果物の鮮度保持剤。

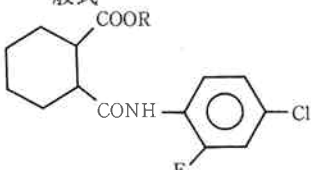
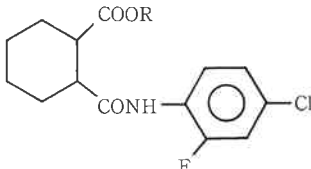
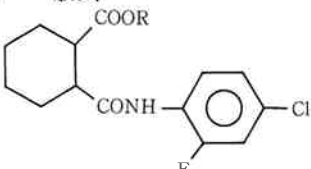
No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
5	58-121007 S 58.07.05 (竹松 森中 中西 橋濱)	01-019385 H01.04.11 哲夫, 近内 秀夫, 野中 明, 続木 充幸, 魚谷	01537986 H02.02.06 誠登 悠次 建治 武)	チオカーバメート誘導体	<p><b>1 一般式 (I):</b></p>  <p>(式中, <math>R_1</math> は 3 位置換の炭素数 2 以上の低級アルキル基または 4 位置換のトリフルオロメチル基を示し, <math>R_2</math> は低級アルキル基を示し, <math>R_3</math> および <math>R_4</math> は各々水素原子, ハロゲン原子, 低級アルキル基, 低級アルコキシ基またはトリフルオロメチル基を示す。ただし, <math>R_3</math> と <math>R_4</math> は互いに同一または相異なる。<math>R_3</math> と <math>R_4</math> がいずれも水素原子以外の場合, <math>R_3</math> と <math>R_4</math> のいずれかがフッ素原子または低級アルコキシ基として 4 位に結合することはない。)</p> <p>で表されるチオカーバメート誘導体。</p> <p><b>2 一般式 (II):</b></p>  <p>(式中, X は水素原子またはハロチオカルボニル基を示し, <math>R_1</math> は 3 位置換の炭素数 2 以上の低級アルキル基または 4 位置換のトリフルオロメチル基を示す。)</p> <p>で表されるフェノール誘導体を</p> <p>一般式 (III):</p>  <p>(式中, Y は (II) 式の X が水素原子のときハロチオカルボニル基, (II) 式の X がハロチオカルボニル基のとき水素原子を示し, <math>R_2</math> は低級アルキル基を示し, <math>R_3</math> および <math>R_4</math> は各々水素原子, ハロゲン原子, 低級アルキル基, 低級アルコキシ基またはトリフルオロメチル基を示す。ただし, <math>R_3</math> と <math>R_4</math> は互いに同一または相異なる。<math>R_3</math> と <math>R_4</math> がいずれも水素原子以外の場合, <math>R_3</math> と <math>R_4</math> のいずれかがフッ素原子または低級アルコキシ基として 4 位に結合することはない。)</p> <p>で表されるアニリン誘導体と反応させることを特徴とする。</p> <p>一般式 (I):</p>  <p>(式中, <math>R_1</math> は 3 位置換の炭素数 2 以上の低級アルキル基または 4 位置換のトリフルオロメチル基, <math>R_2</math> は低級アルキル基, <math>R_3</math> および <math>R_4</math> は各々水素原子, ハロゲン原子, 低級アルキル基, 低級アルコキシ基またはトリフルオロメチル基を示す。<math>R_3</math> と <math>R_4</math> は互いに同一または相異なる。ただし, <math>R_3</math> と <math>R_4</math> がいずれも水素原子以外の場合, <math>R_3</math> と <math>R_4</math> のいずれかがフッ素原子または低級アルコキシ基として 4 位に結合する</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					ことはない。 で表されるチオカーバメート誘導体の製造法。
6	55-183807 S 55. 12. 26 (田中洋三郎, 松本 村山 浩)	01-022859 H01. 04. 28	01543303 H02. 02. 15 芳明	難燃性ポリオレフィン 樹脂組成物	1 炭素数10~50のパラフィン又はオレフィン炭化水素の塩素化脂肪族炭化水素, エポキシシクロヘキサン系の脂環式脂肪族ジエポキシ化合物およびペンタエリスリトールを配合して成り, 該ジエポキシ化合物とペンタエリスリトールを各々該塩素化脂肪族炭化水素に対して0.1~5重量%, 0.5~10重量%の割合で配合して成る難燃性ポリオレフィン樹脂組成物。
7	56-029435 S 56. 03. 03 (井上 國世)	01-028909 H01. 06. 06	01545450 H02. 02. 15	還元型チオールの分別 定量法	1 還元型グルタチオン及びシステインを含む試料溶液から, 試料溶液の pH 6.5 ないし 9.5, 温度 0 ないし 70°C において, SH 試薬としての 5, 5'-ジチオビス (2-ニトロ安息香酸) に対する反応性の差を, 両者のモル濃度の和 $10^{-8}$ ないし $10^{-4}$ , かつその比 5/95 ないし 95/5 の範囲でストップト・フロー分光光度計を用いて検出することによって両者を分別定量することを特徴とする還元型チオールの分別定量法。
8	56-036484 S 56. 03. 16 (柴田 勝弥, 岩本 英次)	01-028070 H01. 05. 31	01545455 H02. 02. 15	キナクリドン類の製造 方法	1 一般式(I)で表わされる2,5-ジアリールアミノテレフタル酸  (I) (式中Rは水素原子, Xはメチル, エチル, クロル, ブロム基の置換基を表わし, nは0, 1, 2, 3又は4の整数であり, 置換基の数を表わす。更に -NH- 基に隣接するオルト位は少なくとも一つはHである。) を, 2,5-ジアリールアミノテレフタル酸(I)に対して3倍(重量)量以上の式(II)で表わされる1,3-ジメチルイミダゾロン又は(III)で表わされるテトラメチル尿素中で, 2,5-ジアリールアミノテレフタル酸(I)1モルに対して1~3モル量の P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> と共に加熱することを特徴とするキナクリドン類の製造法。  (II)  (III)
9	57-173290 S 57. 10. 04 (有家 潤二, 相本 宮崎 弘)	01-027977 H01. 05. 31	01544327 H02. 02. 15 道行	フォージャサイト型ゼ オライトの製造法	1 無定形シリカ源, アルミナ源, 苛性アルカリ及び水を含有する粒度 1~100 μm の混練造粒塊を 80~130°C の温度で且つ水蒸気, 水, 苛性アルカリ水溶液及び珪酸アルカリ水溶液の少なくとも1種から選択された環境下で結晶化を行うことを特徴とするフォージャサイト型ゼオライトの製造法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
10	57-200270 S 57. 11. 17 (田辺 生重)	01-025020 H01. 05. 16 (豊和, 松下 哲男)	01542436 H02. 02. 15 駿	液体クロマトグラフ用 溶離液組成物	<p>1 液体クロマトグラフ用溶離液に、</p> <p>A 一般式</p>  <p>(ただし、式中 R<sub>1</sub> は水素、窒素を含む不飽和複素環化合物を示す。) で示される化合物</p> <p>B 一般式</p>  <p>(ただし、式中 R<sub>2</sub> はフェニル基、ベンジル基、フェノキシメチル基、フェニルイソキサゾール基を示す。) で示される化合物</p> <p>C 一般式</p>  <p>で表わされる化合物を少なくとも一種類配合してなることを特徴とする液体クロマトグラフ用溶離液組成物。</p>
11	56-148753 S 56. 09. 22 (岩原)	01-031586 H01. 06. 27 弘育, 小紫	01546744 H02. 02. 28 淳治)	ガルバニー電池式湿度 センサー	<p>1 ストロンチウム及びセリウムの酸化物中にイットリウム、スカンジウム、イツテルビウム、ネオジム、マグネシウム、プラセオジウム及び亜鉛の少なくとも一種以上の金属の酸化物を含んでなるプロトン導電性固体酸化物を隔壁とし、該隔壁の両面の湿度差によって生ずる電位差で湿度を検知することを特徴とするガルバニー電池式湿度センサー。</p>
12	53-111670 S 53. 09. 13 (宮之原)	63-041897 S 63. 08. 19 勲, 水井	01547339 H02. 02. 28 規雅)	ポリエチレンポリアミン の製造方法	<p>1 アルミナまたはシリカを主成分とする無機化合物の存在下で、モノエタノールアミンまたはエチレングリコールと、エチレンジアミンとを 250°C~350°C の温度で、実質的に液状で接触させることを特徴とする非環状ポリエチレンポリアミンの選択的製造方法。</p>
13	57-129759 S 57. 07. 26 (苅谷 野中 伊藤 (アグロカネショウ(株)と共 願)	01-029196 H01. 06. 08 昭範, 赤平 悠次, 中西 明, 龍郎	01547263 H02. 02. 28 明	有機リン酸エステル化 合物及びその製造法並 にこれを有効成分とし て含有する殺虫、殺ダ ニ剤	<p>1 一般式</p>  <p>(式中Rは水素原子またはハロゲン原子を表わす。)</p> <p>で表わされる有機リン酸エステル化合物。</p> <p>2 一般式</p>  <p>(式中Xはハロゲン原子を表わす。)</p> <p>で表わされる化合物と一般式</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					 <p>(式中Rは水素原子またはハロゲン原子を表わす。)</p> <p>で表わされる化合物とを反応させることを特徴とする一般式</p>  <p>(式中Rは水素原子またはハロゲン原子を表わす。)</p> <p>で表わされる有機リン酸エステル化合物の製造法。</p> <p><b>3 一般式</b></p>  <p>(式中Rは水素原子またはハロゲン原子を表わす。)</p> <p>で表わされる有機リン酸エステル化合物を有効成分として含有することを特徴とする殺虫、殺ダニ剤。</p>
14	58-159038 S 58.09.01 (玉野 中澤)	01-028157 H01.06.01 信夫, 蔵本 秀昭)	01545510 H02.02.28 憲一	紙コート用組成物	<p><b>1</b> エチレン-酢酸ビニル共重合体100重量部に対してジシクロペンタジエンと無水マレイン酸の共重合樹脂10~500重量部を有機溶剤溶液として含んで成るエチレン-酢酸ビニル共重合体系紙コート用組成物。</p>
15	54-106691 S 54.08.23 (今浜)	01-032181 H01.06.29 敏信)	01553885 H02.04.04	珪酸カルシウムを主原料とする成形用組成物	<p><b>1</b> 珪酸カルシウムを主原料とする成形用組成物の構成成分にマイカ粉末を加えて成る押出し成形用または射出成形用の組成物。</p>
16	57-206049 S 57.11.26 (戸床)	01-036481 H01.08.01 正明, 渡辺	01555416 H02.04.23 博幸)	高純度イソプレン重合体環化物の製造方法	<p><b>1</b> イソプレンモノマーを一般式 RM (Rはアルキル, アリールまたはアラルキル基を示し, Mはリチウム, ナトリウムまたはカリウムを示す) で表わされる有機金属存在下に重合し, 該重合体に三フッ化ホウ素エーテル錯体と一般式 <math>Cl_{3-n}H_nCCOOH</math> (nは0から3の整数を示す。) で表わされるカルボン酸よりなる触媒に接触させ, 重量平均分子量 <math>M_w</math> と数平均分子量 <math>M_n</math> の比 <math>M_w/M_n</math> で定義される分散度が2以下であるイソプレン重合体環化物を製造する方法。</p>
17	57-149249 S 57.08.30 (林 江村)	01-040843 H01.08.31 隆夫, 坂中 徳昭)	01557531 H02.05.16 靖弘)	粉末ゴムの製造法	<p><b>1</b> カルボキシル基を含有する水溶性高分子を含むゴムラテックスを酸性条件下で, 高級アミン塩の水溶液中に滴下混合し, 次いで合成樹脂をエマルジョンとして加えて得られる粉末ゴムスラリー液に脂肪酸石ケンを加え, これを酸型にし, 50~100°C で熟成後, 30°C 以下でアルカリ処理することを特徴とする有機溶剤に可溶性粉末ゴムの製造法。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
18	57-149250 S 57. 08. 30 (林 江村)	01-040844 H 01. 08. 31 隆夫, 坂中 徳昭)	01557532 H 02. 05. 16 靖弘	粉末ゴムの凝集防止方法	1 アニオン性水溶性高分子を含むゴムラテックスを、酸性条件下で該アニオン性水溶性高分子とコアセルベーションを起すカチオン性水溶性高分子あるいは陽イオン界面活性剤の水溶液中に酸性条件下で投下混合し、次いで合成樹脂をエマルジョンとして加えて得られる粉末ゴムスラリー液を脂肪酸石ケンおよびポリ塩化アルミニウムで処理することを特徴とする貯蔵における粉末ゴムの凝集防止方法。
19	56-044093 S 56. 03. 27 (折坂)	01-038874 H 01. 08. 16 克則)	01561913 H 02. 05. 31	塩化アルカリ金属塩水溶液の電解方法	1 陽イオン交換膜の陰極側の面に導電性多孔質を固着せしめた膜を用い、陰極室と陽極室の圧力差によって該多孔質層を陰極と接触させて塩化アルカリ金属塩水溶液を電解する方法において、化学メッキ法によって陰極側の面に、陰極反応に対して触媒作用を有する金属を固着した陽イオン交換膜を用いることを特徴とする塩化アルカリ金属塩水溶液の電解方法。
20	57-060993 S 57. 04. 14 (清田 中川)	01-043026 H 01. 09. 18 徹, 折坂 修)	01560547 H 02. 05. 31 克則	陽イオン交換膜の表面に金属を固着せしめる方法	1 陽イオン交換膜の表面に金属を固着せしめる方法において、あらかじめ、該膜の表面にポリアミン、あるいはポリアミンの塩酸塩を含浸させ、次に溶液中で負の金属錯体イオンを形成する金属塩を含浸させて化学メッキを施すことを特徴とする陽イオン交換膜の表面に金属を固着せしめる方法。
21	58-167415 S 58. 09. 13 (岩田 野中 森中 橋濱)	01-045449 H 01. 10. 03 和夫, 竹松 悠次, 中西 秀夫, 続木 充幸, 魚谷 武)	01561693 H 02. 05. 31 哲夫 明 建治 武)	抗真菌剤	1 一般式 (I) $\begin{array}{c} \text{Y} \quad \text{Z} \\ \parallel \quad   \\ \text{X}-\text{O}-\text{C}-\text{N}-\text{W} \end{array}$ <p>(式中、Xは2-ナフチル基、5-インダニル基、5,6,7,8-テトラヒドロ-2-ナフチル基、1,4-メタノ-1,2,3,4-テトラヒドロ-6-ナフチル基、1,4-エタノ-1,2,3,4-テトラヒドロ-6-ナフチル基、2-キノリル基、またはハロゲン原子、低級アルキル基、低級アルケニル基、低級アルコキシ基、低級アルケニルオキシ基、ハロゲン化低級アルキル基、低級アルキルチオ基、低級アルキルスルホニル基、低級アルキルアミノ基、ニトロ基、メチレンジオキシ基から選ばれた1個または2個の同種あるいは異種の置換基を有するフェニル基を示し、Yは酸素原子または硫黄原子を示し、Zは低級アルキル基を示し、Wは低級アルキル基、低級アルコキシ基、低級アルケニルオキシ基、低級アルキルアミノ基から選ばれた1個または2個の同種の置換基を有するピリジル基を示す。)で表わされるカーバメート誘導体を有効成分として含有することを特徴とする抗真菌剤。</p>
22	57-007566 S 57. 01. 22 (藤井)	01-047521 H 01. 10. 16 修, 平賀)	01564352 H 02. 06. 12 要一)	鉄又は鉄を主成分とする磁性金属粉末の製造方法	1 鉄又は鉄を主成分とするオキシ水酸化物又は酸化物を加熱還元する磁性金属粉末の製造法において、オキシ水酸化物又は酸化物の粒子を二価又は三価の金属イオンで不溶化、固定されたアニオン系界面活性剤層で被覆したのち、還元する事を特徴とする磁性金属粉末の製造方法。

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
23	57-007567 S 57. 01. 22 (藤井 修, 平賀 井上)	01-047522 H 01. 10. 16	01564353 H 02. 06. 12 要一	鉄又は鉄を主成分とする磁性金属粉末の製造方法	<p>1 鉄又は鉄を主成分とするオキシ水酸化物又は酸化物を加熱還元する磁性金属粉末の製造法において、オキシ水酸化物又は酸化物の粒子をケイ酸イオンで不溶化固定された第4級アンモニウム塩系界面活性剤層で被覆したのち、還元する事の特徴とする磁性金属粉末の製造方法。</p>
24	57-099821 S 57. 06. 09 (染谷 進三, 赤平 野中 統木 野中 悠次, 伊藤 建治) (アグロカネショウ(株)と共願)	01-049140 H 01. 10. 23	01564664 H 02. 06. 12 麓郎 幹雄	アニリド酸誘導体、その製造方法およびそれらを含有する除草剤	<p>1 一般式</p>  <p>(式中、Rはアルカリ金属、アルカリ土類金属、水素原子または側鎖があっても良い炭素原子数1～4個のアルキル基を表わす。) で表わされるヘキサヒドロフタルアニリド酸誘導体。</p> <p>2 2-ハロホルミル-1-シクロヘキサンカルボン酸エステルまたは無水シス-1,2-シクロヘキサンジカルボン酸と4-クロロ-2-フルオロアニリンとを反応させ、必要に応じて生成物を加水分解することを特徴とする一般式</p>  <p>(式中Rはアルカリ金属、アルカリ土類金属、水素原子または側鎖があっても良い炭素原子数1～4個のアルキル基を表わす。) で表わされるヘキサヒドロフタルアニリド酸誘導体の製造方法。</p> <p>3 一般式</p>  <p>(式中Rはアルカリ金属、アルカリ土類金属、水素原子または側鎖があっても良い炭素原子数1～4個のアルキル基を表わす。) で表わされるヘキサヒドロフタルアニリド酸誘導体の一種またはそれ以上を有効成分として含有することを特徴とする除草剤。</p>
25	56-037870 S 56. 03. 18 (佐藤 孝男, 川崎 信弘)	01-041711 H 01. 09. 07	01569120 H 02. 07. 10	塩化アルカリ水溶液の電解方法	<p>1 隔膜を用い陽極室と陰極室とを区割し、陽極室に塩化アルカリ水溶液を供給して、陽極室より塩素、陰極室より水素、並びに苛性アルカリを製造する方法において、隔膜面に向かって下り勾配を有し、投影開口率が実質的にゼロであるブラインドタイプの多孔性電極を陰・陽極のいずれか一方、又は両方の電極として用い、かつ、陽極、陰極との極間距離を2mm以下に維持して電解することを特徴とする塩化アルカリ水溶液の電解方法。</p>

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
26	56-078619 S 56.05.26 (中井 堤)	01-048270 H01.10.18 秀一, 雲井 幸弘)	01570451 H02.07.25 貞勝	N-アルキルモルホリンの製造方法	<p>1 特許請求の範囲</p> $\text{R}-\text{N} \begin{cases} \text{CH}_2\text{CH}_2\text{OH} \\ \text{CH}_2\text{CH}_2\text{OH} \end{cases} \quad \text{[I]}$ <p>(式[I]中, Rは C<sub>1</sub>~C<sub>20</sub> のアルキル基または C<sub>3</sub>~C<sub>8</sub> のシクロアルキル基である) で表わされるN-アルキルジエタノールアミンを, 気相で反応させて一般式</p> $\text{R}-\text{N} \begin{cases} \text{CH}_2\text{CH}_2 \\ \text{CH}_2\text{CH}_2 \end{cases} \text{O} \quad \text{[II]}$ <p>(式[II]中, Rは式[I]中におけると同義である) で表わされるN-アルキルモルホリンを製造する際に, 原料N-アルキルジエタノールアミンを水で希釈して1~20モル%濃度でアルミナを触媒として用いて反応させることを特徴とするN-アルキルモルホリンの製造方法。</p>
27	52-113236 S 52.09.22 (伴野 橋本 松下)	62-041210 S 62.09.02 丞計, 吉田 勉, 深野 駿)	01573274 H02.08.20 精吾 一幸	血漿蛋白質の分離方法	<p>1 分子篩クロマトグラフィーにおいて, 親水性担体を用い緩衝液と中性塩溶液とからなるpH 4~9, かつイオン強度0.01~1.0の溶離液に, 血漿蛋白質を含む溶液を通過することにより, 血漿蛋白質を分離することを特徴とする血漿蛋白質の分離方法。</p>
28	54-058580 S 54.05.15 (斉藤 荒井)	62-021771 S 62.05.14 寿広, 堤 昭治)	01573277 H02.08.20 幸弘	アルコール類の製造方法	<p>1 実質的に水と混和しない溶媒中で, 該溶媒に溶解するヒドロホルミル化触媒を用いて, オレフィン類をヒドロホルミル化した後, その反応混合物に, 生成したアルデヒド類の0.5~30重量倍の水を添加して, 水素化触媒の存在下に水素化した後, ヒドロホルミル化触媒成分を含む有機相と生成アルコール類を含む水相に分液し, 有機相はヒドロホルミル化に循環使用し, 一方水相よりアルコール類を取得することを特徴とするオレフィン類よりアルコール類を製造する方法。</p>
29	56-186862 S 56.11.24 (奥園 喜多)	01-058205 H01.12.11 修一, 林 篤, 坂中	01573334 H02.08.20 隆夫 靖弘)	ポリクロロブレンラテックスの製造方法	<p>1 ラジカル重合開始剤を含む水性媒体中へ, その水量の0.1~20重量%の少なくとも一種の不飽和酸と1~80重量%のビニル系単量体を連続的に添加しながら重合することにより得られるエマルジョン中に, その10~120重量%のクロロブレンを添加しクロロブレンの重合を行なうことを特徴とするカルボキシル基で安定化されたポリクロロブレンラテックスの製造方法。</p>
30	57-102137 S 57.06.16 (工藤 村山)	01-053020 H01.11.10 正行, 竹林 浩)	01575111 H02.08.20 忠夫	青果物の鮮度保持剤	<p>1 ゲル状アルミノシリケートに過マンガン酸カリウムを担持させたことを特徴とする青果物の鮮度保持剤。</p>
31	56-189135 S 56.11.27 (近藤 藤井)	02-002801 H02.01.19 徳矩, 溝口 咲美)	01579744 H02.09.13 順造	湿式リン酸の製造方法	<p>1 二水一水法によって湿式リン酸を製造するにあたり, リン鉱石としてリン灰鉱を使用し, かつ, 分解槽でえられたリン酸スラリーの液相中の Al/F 重量比を0.09~0.16に調節することを特徴とする, 湿式リン酸の製造方法。</p>



No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
32	57-206048 S 57. 11. 26 (戸床	02-002882 H02. 01. 19 正明, 渡辺	01579760 H02. 09. 13 博幸)	イソプレン重合体環化物の製造方法	1 イソプレンモノマーを一般式 RM (Rはアルキル, アリールあるいはアラルキルを示し, Mはリチウム, ナトリウムあるいはカリウムを示す。) で表わされる有機金属化合物の存在下に重合させ, 得られた重合体を三フッ化ホウ素エーテル錯体および一般式 R'X (R'はベンジル, t-ブチルあるいはアリル基を示し, Xはハロゲンを示す) で表わされる有機ハロゲン化物よりなる触媒と接触させ, 重量平均分子量 Mw と数平均分子量 Mn の比 Mw/Mn で定義される分散度が2以下であるイソプレン重合体環化物を製造する方法。
33	57-017128 S 57. 02. 05 (小倉 英二, 荒井 昭治 三戸 邦弘) (小野田セメント(株)と共願)	02-009569 H02. 03. 02	01582488 H02. 10. 11	フッ素化エステル製造方法	1 一般式 CF <sub>3</sub> CH <sub>2</sub> X (Xは Cl 又は Br) で表わされる1, 1, 1-トリフルオロ-2-ハロゲン化エタンをγ-ブチロラク톤を溶媒として, イ) 一般式 RCOOM (Rは, 炭素数19以下のアルキル基, 又はフェニル基, Mは Na, K, Ca 又は Mg) で表わされるカルボン酸塩 ロ) 一般式 MOOCR'COOM' (Rは炭素数0~8のアルキレン基又はフェニレン基, M及びM'は Na, K, 又は Mg で互いに同じか又は異ってもよい) で表わされるジカルボン酸塩及び ハ) 一般式 MOOCROR'COOM' (R及びR'は, アルキレン基で互いに同じか, 又は異っていてもよく, その炭素数の合計が10以下であり, M及びM'は Na, K 又は Mg で互いに同じか又は異っていてもよい) で表わされる分子内にエーテル結合を有するジカルボン酸塩 のうちの一種または二種以上の混合物とエステル化反応を行なわせることを特徴とするトリフルオロメチル基を含むフッ素化エステルの製造方法。
34	57-036534 S 57. 03. 10 (村上 河本 次雄, 平賀 泰三)	02-005685 H02. 02. 05	01581330 H02. 10. 11 要一	高純度水酸化カルシウムの製造方法	1 塩化カルシウムと水酸化カルシウムおよび/または酸化カルシウムから水溶液中でオキシ塩化カルシウムを晶出させ, 該オキシ塩化カルシウムを分級して粗粒部のオキシ塩化カルシウムを得, 次いで該粗粒部のオキシ塩化カルシウムを分解して水酸化カルシウムを得ることを特徴とする高純度水酸化カルシウムの製造方法。
35	57-166596 S 57. 09. 27 (三道 村井 克己, 原田 正義 正信)	02-008620 H02. 02. 26	01584903 H02. 10. 31	クロロプレンゴム組成物	1 1-クロロブタジエンとブタジエンを水性乳化重合して得た1-クロロブタジエン-ブタジエン共重合ゴム(a)とクロロプレン又はクロロプレンと最大20重量%までの共重合可能な単量体との混合物を水性乳化重合して得たクロロプレンゴム(b)とが(a)対(b) (重量) で5対95乃至35対65の割合でブレンドされてなるクロロプレンゴム組成物。
36	55-087800 S 55. 06. 30 (金子 崎山 博, 清水 明彦 和孝, 吉田 節夫)	02-010163 H02. 03. 07	01588426 H02. 11. 19	重合体スケールの発生及び付着防止方法	1 ビニル系単量体, ジエン系単量体またはオレフィン系単量体を重合あるいは共重合する際の重合体スケールの発生およびこれらの重合機器面への付着を防止する方法に於て, 反応物接触部分の重合機器の材質が90%以上のチタニウムを含む, クロム, モリブデン, マンガン, アルミニウム, バナジウム, 錫, ニオブから選ば

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
37	56-147974 S 56.09.21 (小山 萩)	02-012238 H02.03.19 (清孝, 入野 規男)	01588482 H02.11.19 滋哲	ジペプチドエステルと アミノ酸エステルとの 付加化合物の回収法	<p>1 一般式</p> $R_1-O-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-\underset{\underset{R_2}{ }}{CH}-NH_2 \cdot HO-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-(CH_2)_n-\underset{\underset{NHX}{ }}{CH}-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-NH-\underset{\underset{R_3}{ }}{CH}-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-O-R_4$ <p>で表わされるジペプチドエステルとアミノ酸エステルとの付加化合物（式中 <math>R_1</math> 及び <math>R_4</math> は低級アルキル、<math>R_2</math> 及び <math>R_3</math> はアミノ酸の側鎖基、<math>X</math> は置換基を有することのあるベンジルオキシカルボニル基であり、<math>n</math> は 1 又は 2 である）を固相で含む水性混合液に水と二相を形成することのできる有機溶媒を加えて混合し、この付加化合物の実質的部分を固相で含む有機溶媒相と水相との二液相を形成させ、有機溶媒相を水相から分離し、この付加化合物を有機溶媒のスラリーとして回収することを特徴とするジペプチドエステルとアミノ酸エステルとの付加化合物の回収法。</p>
38	56-148755 S 56.09.22 (小野 萩)	02-012239 H02.03.19 (清孝, 入野 規男)	01588483 H02.11.19 滋哲	ジペプチドエステルと アミノ酸エステルとの 付加化合物の処理方法	<p>1 一般式</p> $R_1-O-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-\underset{\underset{R_2}{ }}{CH}-NH_2 \cdot HO-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-(CH_2)_n-\underset{\underset{NHX}{ }}{CH}-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-NH-\underset{\underset{R_3}{ }}{CH}-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-O-R_4$ <p>で表わされるジペプチドエステルとアミノ酸エステルとの付加化合物（式中 <math>R_1</math> 及び <math>R_4</math> は低級アルキル基、<math>R_2</math> 及び <math>R_3</math> はアミノ酸の側鎖基、<math>X</math> は核に置換基を有することのあるベンジルオキシカルボニル基であり、<math>n</math> は 1 又は 2 である）を固相で含む水性混合液に水と二相を形成することのできる有機溶媒を加えて混合し、この付加化合物の実質的部分を固相で含む有機溶媒相と水相との二液相を形成させ、有機溶媒相を水相から分離し、有機溶媒相に水及び酸を加えて混合接触させ、一般式</p> $HO-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-(CH_2)_n-\underset{\underset{NHX}{ }}{CH}-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-NH-\underset{\underset{R_3}{ }}{CH}-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-O-R_4$ <p>で表わされるジペプチドエステル（式中 <math>R_3</math>, <math>R_4</math>, <math>X</math> 及び <math>n</math> は前記同様である）を含む有機溶媒相と、一般式</p> $R_1-O-\overset{\overset{O}{\parallel}}{C}-\underset{\underset{R_2}{ }}{CH}-NH_2$ <p>で表わされるアミノ酸エステル（式中 <math>R_1</math> 及び <math>R_2</math> は前記同様である）を含む水相との二液相を形成させ、有機溶媒相と水相を分離することを特徴とするジペプチドエステルとアミノ酸エ</p>